

第 1 2 章 公 害 の 苦 情

第1節 公害苦情の件数

1 公害苦情の件数

平成30年度の公害に関する苦情件数は141件で、前年度よりも15件減少しています（表12-1、図12-1）。

表12-1 年度別公害苦情の件数

年度	大気汚染	水質汚濁	騒音	振動	悪臭	土壌汚染	地下水	その他	合計
21	13	44	69	8	73	0	1	2	210
22	18	49	85	22	51	0	1	5	231
23	8	32	71	10	52	0	1	1	175
24	16	42	74	9	48	0	1	6	196
25	14	34	74	14	50	0	1	8	195
26	11	30	89	7	27	0	0	8	172
27	7	42	86	11	41	0	3	3	193
28	14	42	81	15	61	0	0	6	219
29	10	19	66	10	42	0	1	8	156
30	8	20	54	8	39	0	1	11	141

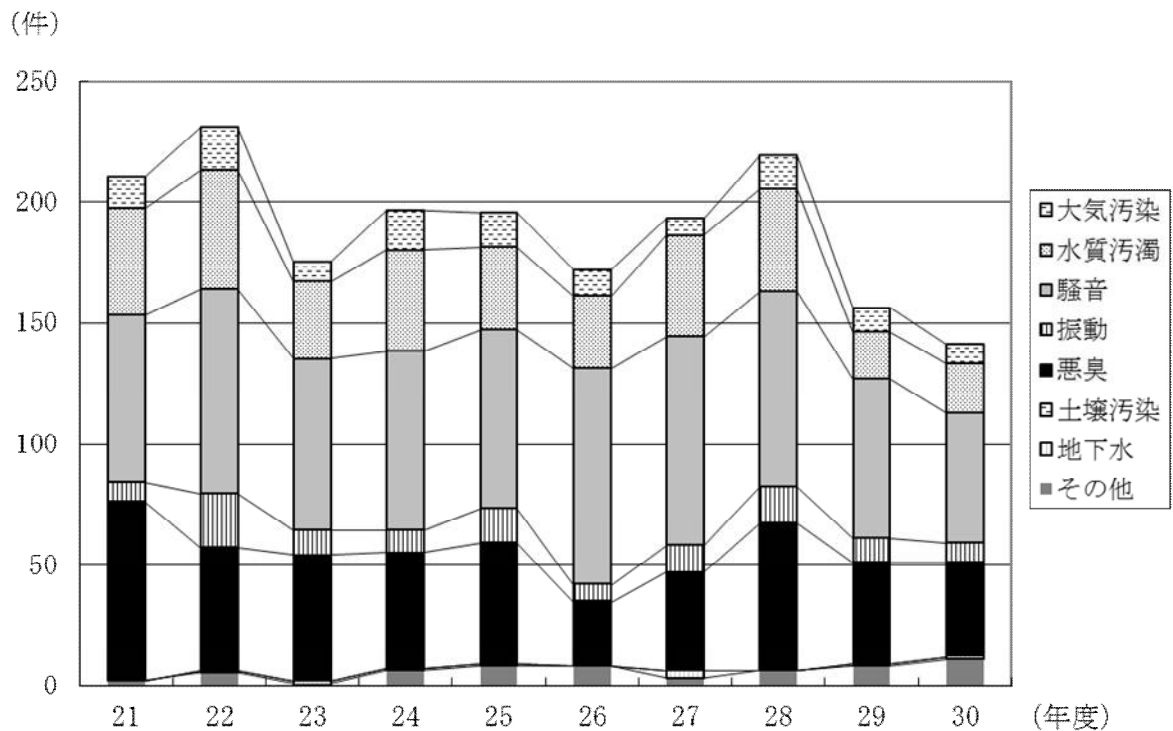


図12-1 年度別公害苦情件数の推移

2 種類別の苦情件数

苦情件数を種類別にみると、騒音の苦情が最も多く、以下、悪臭、水質汚濁の順となっています（図12-2）。

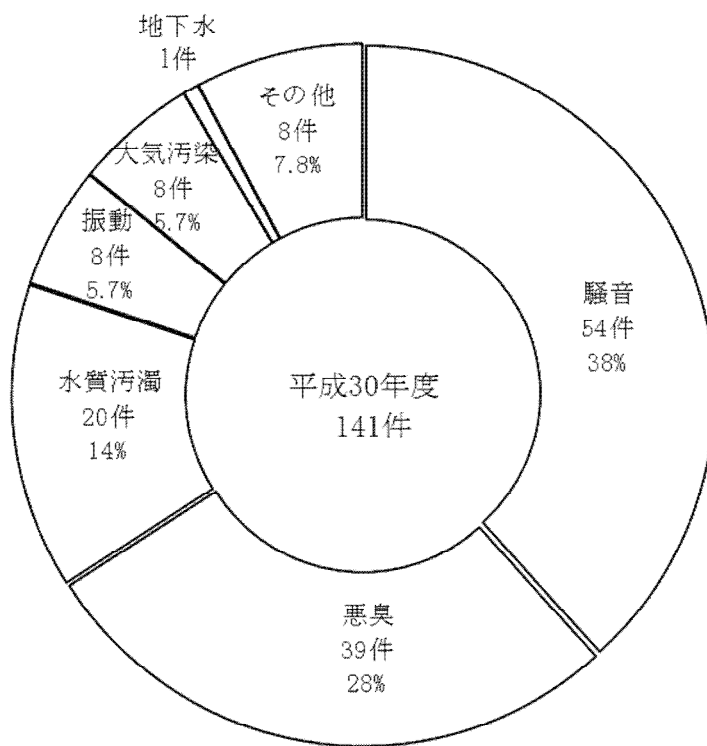


図12-2 種類別苦情件数

3 月別の苦情件数

苦情件数を月別にみると4月が最も多くなっています（図12-3）。

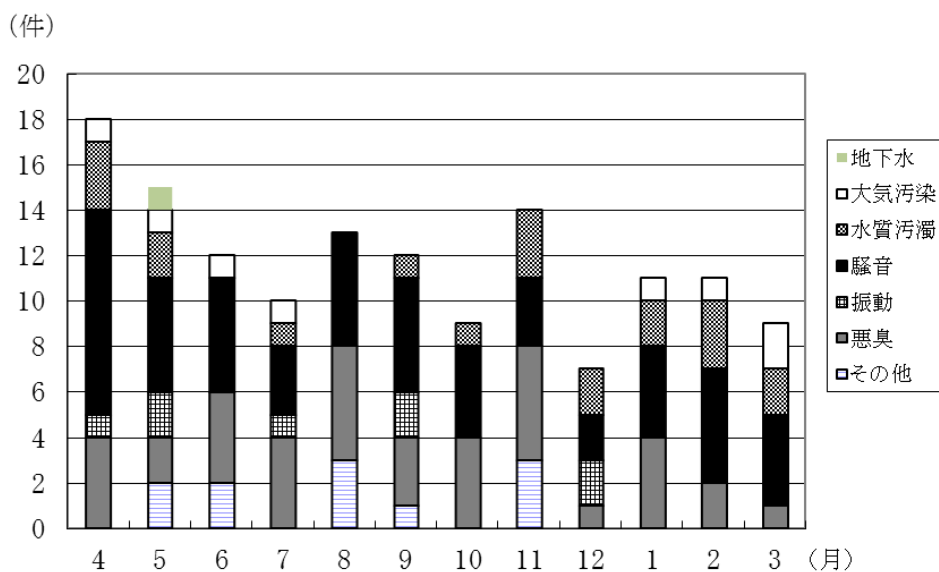


図12-3 月別の苦情件数

4 業種別の苦情件数

苦情発生源を業種別にみると、苦情件数が最も多かったのは総合工事業の37件で、次いで、家庭生活の12件となっています（表12-2）。

表12-2 発生源の業種別の苦情件数

業種	大気	水質	騒音	振動	悪臭	地下水	その他	合計	
耕種農業					1			1	
畜産養蚕農業		1			1			2	
農業サービス業									
林業									
漁業									
金属工業									
石炭原油鉱業									
非金属工業		1						1	
総合工事業	4	1	24	6			2	37	
その他工事業		1	1		1			3	
製造業	食料品製造業		1	2		4		7	
	繊維工業				1			1	
	木材製造業	1	1	2				4	
	パルプ製造業								
	出版関連産業								
	化学工業								
	石油製造業								
	プラスチック製造業								
	ゴム製造業								
	窯業等製造業	1		1				2	
	鉄鋼非鉄金属								
	機械器具製造								
	その他製造業								
	(小計)	2	2	5	1	4			14
電気ガス等	1							1	
水道業			1					1	
鉄道業									
旅客輸送業									
貨物輸送業									
航空運輸業									
その他運輸業		1						1	
サービス業	再生資源卸売						1	1	
	卸売・小売業		1	3				4	
	飲食業		1	3		2		7	
	飲食店のカラオケ			4				4	
	洗濯理容業等			1				1	
	駐車業								
	生活関連サービス			1		1		2	
	旅館等					1		1	
	娯楽業								
	娯楽業のカラオケ			1					1
	ゴルフ場業等								
	自動車整備業								
	機械修理業								
	専門サービス業			1		1			2
廃棄物処理業					1			1	
医療業等									
社会保険福祉									
教育等							1	1	
その他サービス業					1			1	
(小計)		2	14		7		3	26	
公務									
家庭生活		3			8		1	12	
家庭生活ペット			1					1	
事務所			2					2	
道路				1				1	
空地									
公園									
神社寺院等									
その他	1	3	4		5		2	15	
不明		5	2		12	1	3	23	
合計	8	20	54	8	39	1	11	141	

5 用途区域別の苦情件数

苦情の発生源を用途地域別にみると、苦情件数が最も多かったのは住居区域の55件で、次いで商業地域の23件となっています（表12-3）。

表12-3 用途地域別公害苦情件数

	大気汚染	水質汚濁	騒音	振動	悪臭	その他	合計	比率%
住居区域	2	4	22	4	18	5	55	39.0
近隣商業		4	5		1		10	7.1
商業	1		13	2	6	1	23	16.3
準工業			2		3		5	3.5
工業	1						1	0.7
工業専用	2	1			1	1	5	3.5
調整区域	1	8	5	1	5	1	21	14.9
その他		2	1		4	3	10	7.1
特定できず	1	1	6	1	1	1	11	7.8
合計	8	20	54	8	39	12	141	100

6 被害の種類別の苦情件数

苦情原因を被害の種類別にみると、苦情件数が最も多かったのは感覚・心理的の110件で、次いで健康の21件となっています（表12-4）。

表12-4 被害の種類別公害苦情件数

	大気汚染	水質汚濁	騒音	振動	悪臭	その他	合計	比率%
健康	2	4	6		7	2	21	14.9
財産	1	1	1	1			4	2.8
動物・植物						2	2	1.4
感覚・心理的	5	14	47	7	31	6	110	78.0
その他		1			1	2	4	2.8
合計	8	20	54	8	39	12	141	100

第2節 公害苦情の概況

1 大気汚染

苦情件数は8件で前年度より2件減少しました（図12-4）。

粉じんに関するものが7件となっています。

建設作業中の散水不足による粉じん被害が4件と多く、施工業者への周知及び指導を行っています。

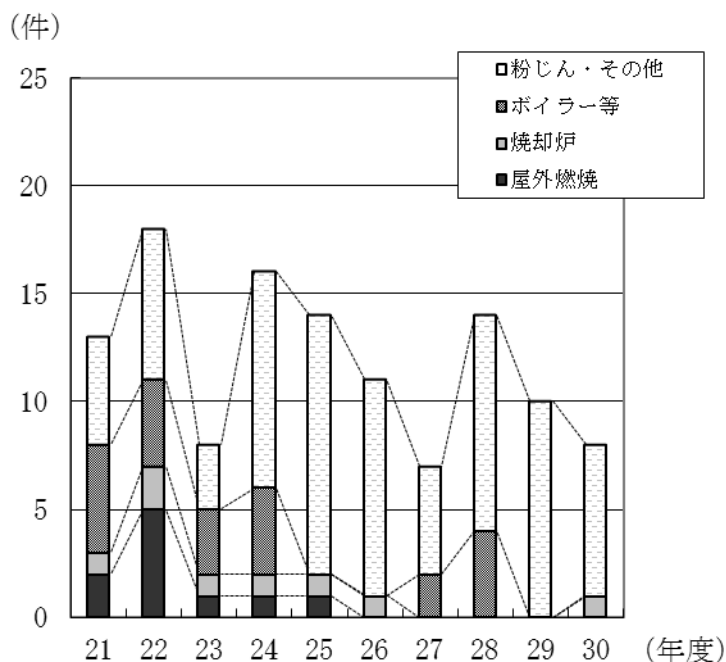


図12-4 大気汚染苦情内訳

2 水質汚濁

苦情件数は24件（へい死魚含む）で前年度より4件増加しました（図12-5）。

種類としては、汚水15件、油流出5件、へい死魚4件となっています。

河川汚濁事故対策としては、発生源に対する汚水処理の適正指導、汚濁物質の取扱い事業所に対する文書指導、広報誌による意識啓発等を行っています。

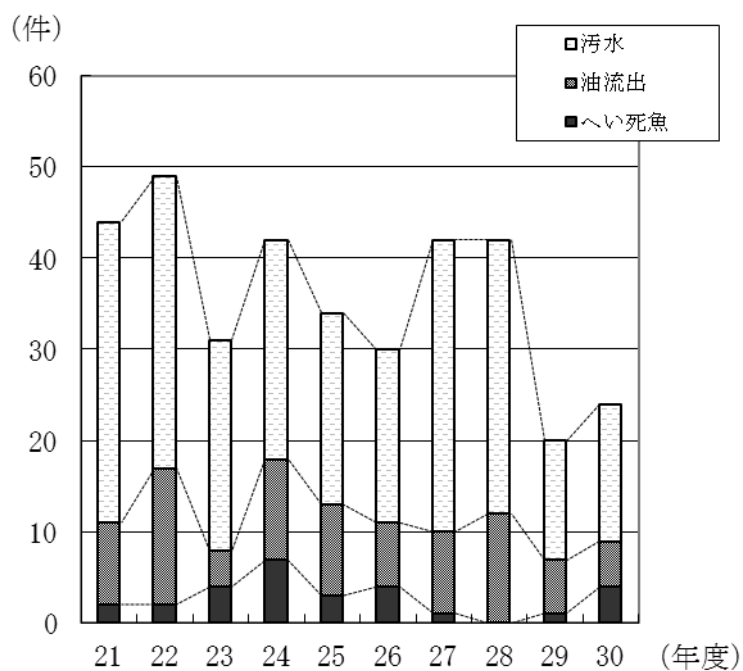


図12-5 水質汚濁苦情内訳

3 騒音

苦情件数は54件で前年度より12件減少しました（図12-6）。

発生源としては、工場・事業場等9件、建設作業26件、営業騒音14件、その他自動車や家庭生活等9件となっています。

聞く人の身体や心理の状態、聞く時間や周囲の状況によってうるさく感じる度合いが異なり、また、個人の感情面にも左右される要素があります。

さらに、発生源と苦情申立者が隣接しているにもかかわらず、当事者間での話し合いが持たれる前に、苦情として市に申し立てられることが多く、隣人同志のコミュニケーション不足も都市・生活型公害が増加する大きな要因となっています。

現代の都市形態の中で、快適な暮らしを維持していくためには、自分自身の生活だけでなく、他人の生活への配慮が必要です。

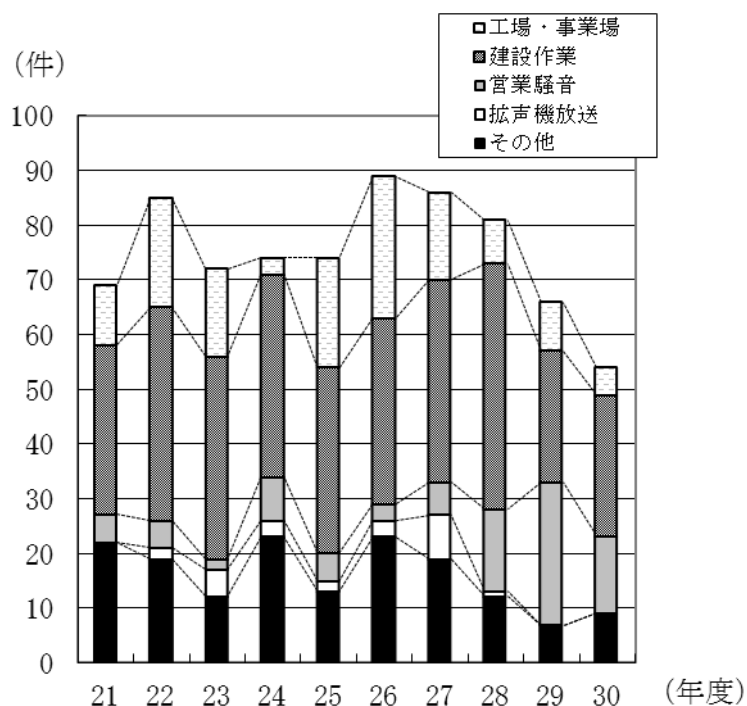


図12-6 騒音苦情内訳

4 振動

苦情件数は8件で前年度より2件減少しました（図12-7）。

発生源の内訳は、工場・事業場1件、建設作業6件、道路1件、その他0件となっています。

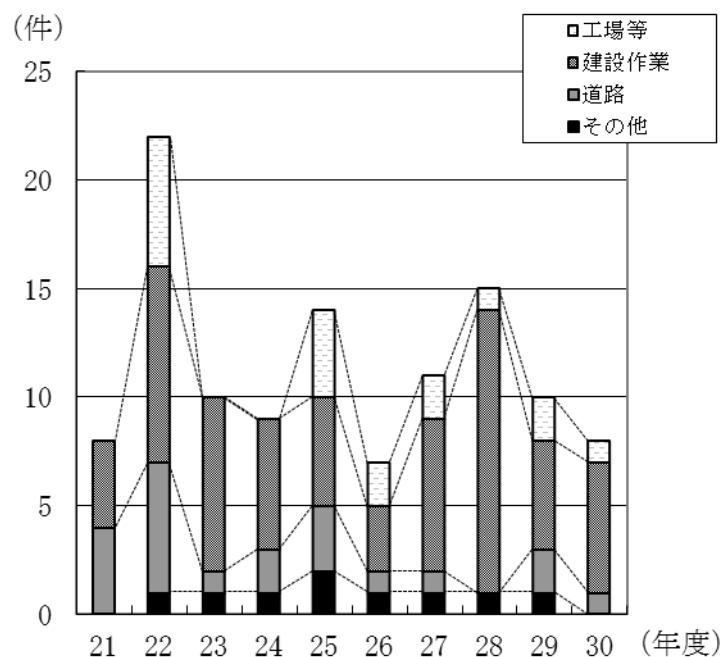


図12-7 振動苦情内訳

5 悪 臭

苦情件数は39件で前年度より3件減少しました。主な苦情発生源は畜産・農業2件、家庭生活7件、工場・事業場11件、塗料のシンナー臭1件、その他や発生源不明等15件となっています（図12-8）。

飲食店からの悪臭の苦情が増加しています。また、消毒剤に関する苦情など、騒音苦情同様、当事者間のコミュニケーション不足による申立てが増加しています。

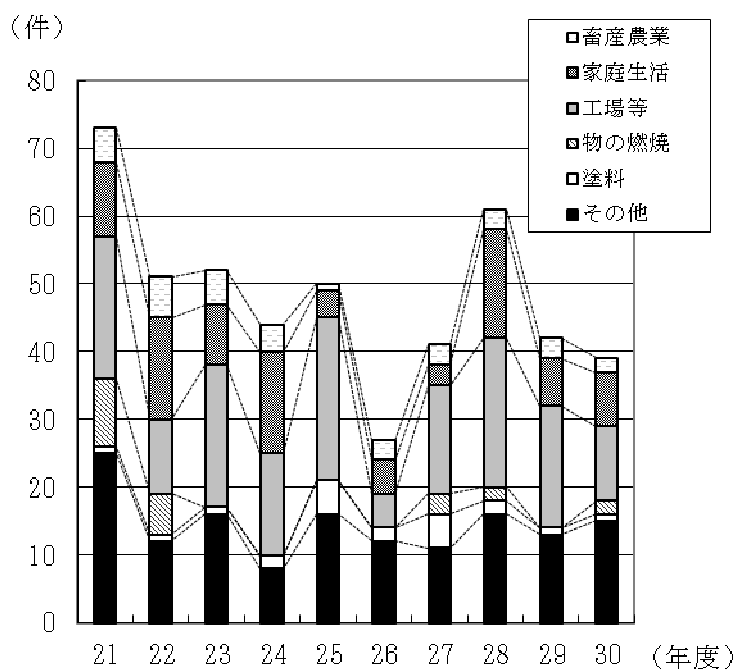


図12-8 悪臭苦情内訳

